

2021 ロバパン CUP 第 53 回全道 U - 12 サッカー大会

準決勝・決勝 戦評

＜準決勝＞ JSN サッカークラブ レッド V S 苫小牧 ELSOLE-FC U12
1 - 0 (0 - 0, 0 - 0, 延長 0 - 0, 1 - 0)

きれいに整備された緑の芝に、真っ白なラインがくっきりと浮かぶ帯広の森のピッチ。大会最終日、前日までの猛暑がウソのように涼しくなり、絶好のコンディションの下、準決勝 2 試合が行われた。

前評判の高かったチームを次々と破り、1 試合ごとに力をつけてきた JSN と、苫小牧地区としては、第 39 回大会以来となるベスト 4 に勝ち進んだ ELSOLE との一戦。

試合開始 1 分、最初にチャンスを迎えたのは JSN だった。トップの 9 番がタイミング良く裏に抜け出しゴールに迫る。更に、素早く中央にいた 10 番にボールをあずけ、左サイドを駆け上がってきた 5 番にスルーパスを送るが、そのパスは少し長すぎて GK にキャッチされる。



その後も、相手ゴールに迫る JSN は、10 番から右サイドの 3 番にスルーパスを送るも決めきれない。一方の ELSOLE も、攻守の切り替えがとても早く、固い守備から徐々にリズムをつかみ出す。相手選手との駆け引きを楽しむかのように、7 番、10 番を起点に攻撃の機会を増やす。GK のキックの精度に特徴をもつ JSN は、その GK からのロングパスを受けた左サイドの 7 番が抜け出し、折り返すがシュートまでは至らない。その後もお互いに決定機を作り出すことができず前半を終える。

後半も JSN のシュートから試合は進んでいく。JSN は 11 番から 9 番の足元へパス。それをコントロールしてからシュートを打つが、惜しくもこれは左に外れてしまう。その後も、左サイドの 7 番がドリブルで仕かけ、チャンスを作り出すがゴールにはつながらない。35 分、ELSOLE は、7 番から中央でパスを受けた 10 番がシュートを放つが、惜しくもゴールポストの上をかすめる。お互いにシュートの意識は高いが、ゴールを決めることができずに試合は延長戦へ突入する。

延長に入っても、お互い決定機を作れず、試合は延長後半へ。試合が動いたのは、延長後半 1 分。それまでボールを丁寧につないできた ELSOLE だったが、キーパーへのパスが若干弱くなり、このバックパスを見逃さなかった JSN の 9 番がボールを奪いゴールに流し込み待望の先取点を挙げる。ELSOLE も、最後まであきらめず戦い抜いたが、終了の笛が鳴り響く。決勝にコマを進めたのは、JSN だった。

惜しくも敗れた ELSOLE だったが、選手一人一人のボールの扱いがうまく、チームとしてのまとまりがあり、試合中も選手たちがお互いに声を出し、最後まであきらめることなく戦う姿が印象に残った。



(十勝少年連盟 澁谷 直哉)

＜準決勝＞ 北海道コンサドーレ東川 U-12 V S SSS 札幌サッカースクール
0－0 PK戦（3－2） （0－0．0－0．延長0－0．0－0）

大会前から前評判の高かった両チームによる準決勝は、予想通りの白熱した好試合となった。

試合開始早々から両チームとも攻守の切り替えが早く、目が離せない試合となった。SSS は、トップの 11 番にボールを集め、右サイド DF の 2 番がタイミング良くオーバーラップし、スピードを生かした突破からチャンスを作る。一方のコンサドーレは、少ないタッチでの細かなパスと、切れ味のあるドリブル、ピッチを広く使ったサイドチェンジを組み入れながら、SSS 陣内に侵入する。5 分、相手ボールを奪った SSS の 11 番がドリブルで持ち込みシュートを打つが、コンサドーレの DF にブロックされる。10 分には、10 番のフリーキックが相手の壁に当たりこぼれたところを 4 番がロングシュートを放つも、惜しくもバーの上へ。前半終了間際、コンサドーレは、ワンタッチでつないだボールが、9 番から 11 番へと送られるが、タッチがやや大きくなり相手 GK に阻まれる。



前半は、縦への攻撃が多くなり、ゴール前の人数が足りなかった SSS だが、ハーフタイムの指示を受け、後半開始早々から人数をかけて攻撃を仕かけ、やや優勢に試合を進める。一方、コンサドーレは、守備の要である 6 番が、的確なポジショニングとカバーリングで SSS の攻撃の芽を摘む。組織的な守備と豊富な運動量で、SSS の良さを消すコンサドーレだが、攻撃では、SSS の最終ラインを突破できず、相手ペナルティーエリア内になかなか侵入することができない。18 分、SSS はパスミスにカット

した 11 番がシュートを打つも GK 正面。白熱した試合は、試合は延長戦に突入する。

延長に入っても、見ごたえのある試合が続く。コンサドーレは、細かなパスをつなぐが、シュートチャンスを作ることができない。SSS も、相手の素早いアプローチにボールを失うことが多くなり、両チーム共に決定機を作れないまま延長後半に入る。SSS は、その後の PK 戦を考え GK を交代する。50 分の中では決着がつかなかった勝負は、PK 戦にもちこまれる。PK 戦は、コンサドーレの 3 人目のシュートを、交代で入った SSS の GK が見事にはじき出し、勝利の女神は SSS に微笑む。



PK 戦で惜しくも敗れ、涙をのんだコンサドーレ東川であったが、真っ向勝負で、最後まで札幌の雄に挑んだ姿は称賛に値する。私自身、U10 北北海道大会で優勝したときから注目してきたわけだが、決して体格には恵まれていない選手たちが、チーム一丸となって戦い、最後まで走り続ける姿は、北北海道の仲間として誇りに思う。今後の活躍を期待したい。

（十勝少年連盟 喜多 進）

＜決勝＞ JSN サッカークラブ レッド V S SSS 札幌サッカースクール

1 - 0 (1 - 0, 0 - 0)

準決勝では、共に延長戦まで戦い抜き、決勝にコマを進めた両チーム。決勝戦までの4試合を無失点で勝ち抜いてきたチーム同士の対戦というのも興味深い。初優勝に挑むJSNと、7度目の頂点を目指すSSSとの試合。大会関係者、役員が見守る中で決勝戦がスタートとした。



試合序盤は、SSSペースで進む。2分、10番から6番にパスがつながりシュートを放つ。やや押し気味に試合を進めるSSSは、しっかりとボールを保持しながらJSN陣内に攻め込む。このままSSSのペースになるかと思われたが、JSNも素早い身体の寄せで、SSSに決定機を作らせない。試合の流れを変えたいJSNは、FKのチャンスをつかむが、7番のシュートはバーの上へ外れる。JSNは、前線からの献身的な守備も

あり、SSSにプレッシャーをかけ続ける。また、左サイドの7番が、タイミング良く攻撃に加わり、強豪相手に自分たちのペースで試合を進める。一方、SSSは、準決勝の激闘の疲れか、しだいに運動量が落ち、いつもの動き、パスワークが見られなくなってくる。2番の突破も、人数をかけて守る相手DFに阻まれる。試合の流れは、徐々にJSNに傾く。試合が動いたのは18分。JSNは、11番→6番→11番とボールをつなぎ、DFの背後を取った11番が、相手GKを落ち着いてかわし、左足でシュートを決める。一気に勢いづくJSNベンチ。

ハーフタイム、JSNベンチからは、「やることを変えない。」「最後までねばり強く。」、SSSベンチからは、「いつも通りやろう。」「2点を取って必ず勝つ。」という声がかかる。

後半に入ると、やや強くなってきた雨のために、ピッチがよりスリッピーになる。早い時間帯で追いつきたいSSSは、運動量を上げ、ボールを動かし、人数をかけて相手ゴール前に攻め込む。

3分、11番のシュートは、惜しくも相手GK正面へ。4分には、

2番を起点に攻め込むが決定機までには至らない。6分、素早いリスタートからパスをつなぎ、最後は



4番がシュートを打つが枠をとらえない。その後は、身体を張ったJSNのDF陣の粘りに、SSSの攻撃がやや単調になる。また、安定した守備を続けるJSNのGKの存在が、SSSの攻撃陣にとって大きな壁となる。残り時間10分を切っても集中力が途切れないJSNは、豊富な運動量でSSSの攻撃の芽を早めに摘む。守備ばかりではない、7番が起点となりミドルシュートやコーナーキックのチャンスを作る。試合終

了まで、両チームの必死のプレーが続くも、SSSは追いつくことができずに、JSNが全道32チームの頂点に立った。

厳しい試合を経験し、勝利を積み重ねることで、1試合ごとに成長を続けたJSNが、歓喜の初優勝に輝いた。チーム関係者の皆さんのこれまでのご努力に拍手を送りたい。また、惜しくも準優勝に終わったSSSであったが、大会を通じて随所にSSSらしさを見せてくれた。連戦の疲れか、残念ながら決勝戦ではその良さを発揮することができなかったわけだが、多彩な攻撃力と個の力は、間違いなく全道のトップレベルであった。



コロナ渦の中、2年ぶりに開催されたこの大会。様々な感染症対策が施され、大会のレギュレーションも、従来の予選リーグを経ての決勝トーナメントではなく、一発勝負のトーナメント戦となったわけだが、各試合で白熱した戦いを見ることができた。

猛暑、そして雨の中、3日間大会運営のためにご尽力いただいた十勝地区サッカー協会、特に、十勝少年サッカー連盟の役員、審判員の皆さん、お疲れさまでした。

(十勝少年連盟 喜多 進)

